

セキュリティ確保とアカウント統合

大分大学(旧)と大分医科大学は2003年に統合され、大分大学として現在に至っている。組織の再編に伴い、それぞれの情報基盤も全面的な統合されることになった。

大分大学の情報基盤

組織改変により、旦野原の本学キャンパス「情報基盤センター」と、狭間キャンパス「医学情報センター」の2拠点間におけるネットワークが整備された。これと同時に、学生、教職員のアカウントは統合され共用サービスも開始されている。アカウントの一元管理、共用サービスの整備を実現することにより、情報基盤整備のコスト低減、各種管理業務の省力化を図ると共に、情報セキュリティ面でのリスク管理が徹底して行われている。

潜在するリスクと対策

アカウント統合以前から質の高い情報セキュリティマネジメントが求められていた。医学情報センターでは学内の情報リソースと病院情報を総合的に管理運用しているためである。着々と進められた情報基盤の整備は、異なるシステムやサービスの混在する複雑な学内ネットワークのアカウントを統合し今日に至っている。

厳格なアクセス管理

アカウント統合により、様々なセキュリティマネジメントが実施されている。学内ネットワークにアクセスする機器(サーバ、PC、周辺機器等)はすべてアカウント情報と連動して稼働している。『アカウントマスター forLDAP』にMACアドレス(機器固有の番号)を事前登録し、厳格なアクセス制限を行なうことでセキュリティを確保するというものだ。

アカウントと入室管理

アクセス管理の観点からアカウントと連動した入室管理システムも導入されている。ICカード、非接触認証装置に対応した携帯電話やスマートフォンにより、学生の入室を管理するこのシステムは、対象となる部屋に入室することで学習システムの認証が実施され、室内のPCが使用可能な状態になるというものだ。従来、学生に開放するPCは設置した部屋自体の開放時間を管理したり、使用者を特定するためのシステムを別途用意したりするなど手間とコストが必要だったが、この入室管理システムを導入することで、学生のIDそのものが入室の鍵となり、同時にシステムの鍵にもなる。使用状況は逐一ログとして残るため、万一不正な行為が行われたとしても追跡が容易であり、総合的な管理体制を構築することが可能となった。

事業者から好評

これら情報基盤の整備は、富士通株式会社九州支社が事業者として構築したものである。『アカウントマスター forLDAP』は既存のネットワークに対する親和性の高さが評価され、アカウント統合の中核的なシステムとして組み込まれている。

『アカウントマスター forLDAP』の日常的な管理業務はWEBブラウザでのみの操作となるため、管理作業の効率化が図られ、管理担当部門、管理者の負担を大幅に低減することが可能となるのも同社に高く評価された点である。

DATA (2011年5月)

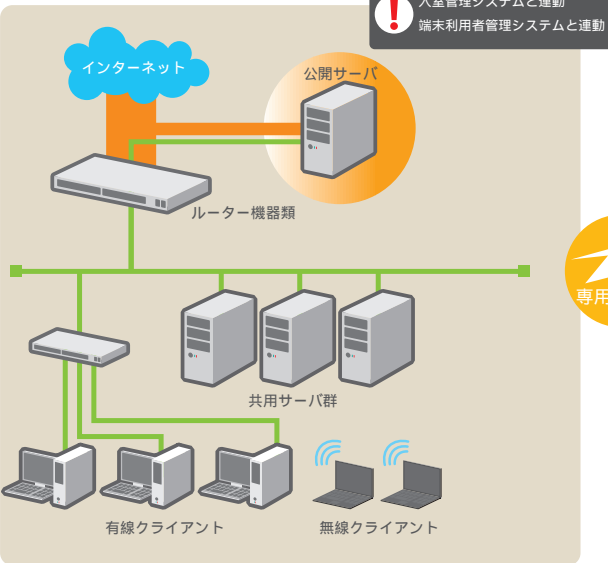
学部数: 4学部

学生数: 5,770人

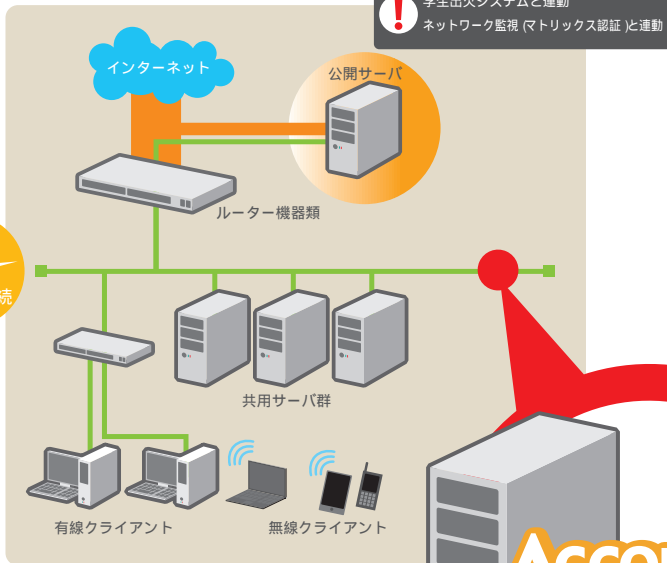
キャンパス数: 3

S事業者: 富士通株式会社九州支社

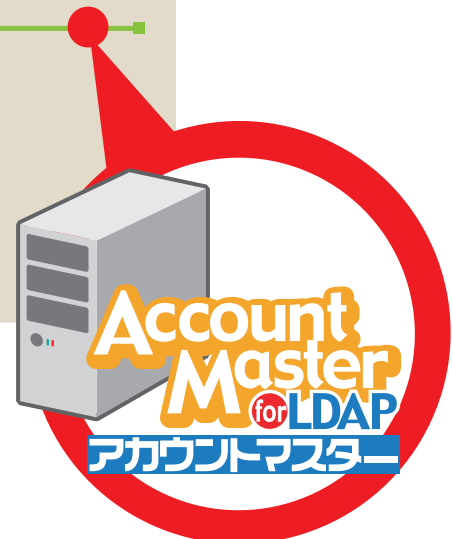
旦野原キャンパス



狭間キャンパス



『アカウントマスター forLDAP』には、両キャンパスのすべてのアカウント情報が登録されています。ネットワーク内の各種サービスに認証機能を提供しています。また、ネットワークに接続される機器のMACアドレスもすべて『アカウントマスター forLDAP』に登録されていて、厳格なセキュリティを提供しています。アカウントの更新、削除などのメンテナンスは『アカウントマスター forLDAP』内の情報をWEBブラウザで書き換えるだけで実施できます。



アカウント管理をもっとカンタンに

構内ネットワークをさらに便利にするアカウント統合。利用者アカウントの一元管理をスマートに実現するアカウントマスターforLDAPをお使いの情報基盤でもご活用ください。

Account Master for LDAP アカウントマスター



アカウント統合の切り札

『アカウントマスターforLDAP』はアカウントの一元管理を実現するためにお役立ていただけるシステムです。様々なシステムやサービスで構築されたネットワークでのアカウント一元管理を実現し、管理者の負担を軽減、さらに管理業務の効率を向上させます。利用者の利便性も高まります。

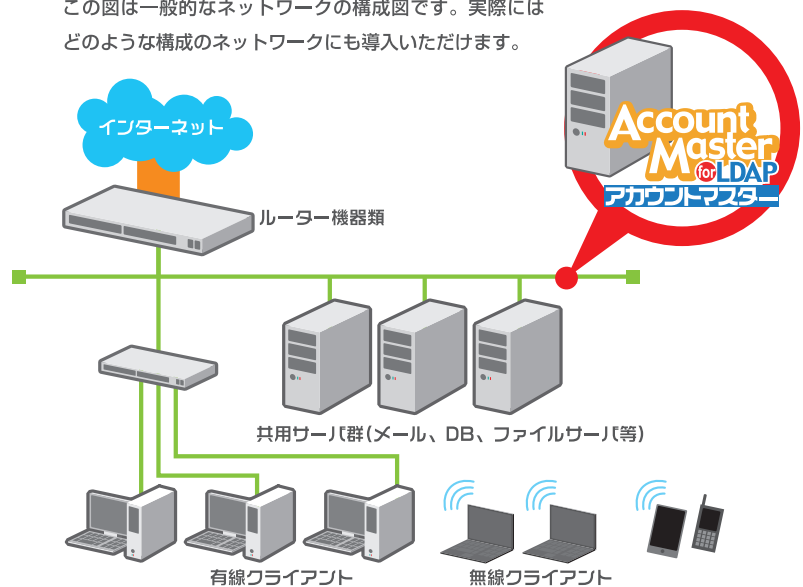
どんなネットワークにも柔軟に対応

異なるOSで構成される複雑なネットワークにもアカウントマスターは導入可能です。管理者はそれぞれのサービスに精通する必要はなく、適切な権限を設定できます。ネットワークの構成、規模に関係なく柔軟に対応できることで多くの導入実績があります。

既存の認証サーバ(ADサーバ、RADIUSサーバ等)において各サービスの認証を行っている場合でも、アカウントマスターはそれぞれの認証サービスと併用可能。また、アカウントマスターとLDAPとの組み合わせで、他の認証サービスを廃止することも可能になります。

どんなネットワークでも柔軟に対応

この図は一般的なネットワークの構成図です。実際にはどのような構成のネットワークにも導入いただけます。



こんなお悩みに **アカウントマスター** の導入をおすすめいたします。

お悩み1 アカウントが多い...

アカウントの数だけでなく、その種類も増えてくると、管理、メンテナンスが大変。管理業務に多くの時間と人的資産を投入する不都合が生じている。

スムーズなアカウント発行

アカウントは一元管理できますので、発行も管理もスムーズに。利用者へのアカウント発行は管理側の規定するポリシーの範囲内で、最短の手間で行われます。

お悩み2 システムが多すぎる...

多様なサービスを提供せざるを得ない状況では、各システムにある程度詳しくないと、設定作業が困難になる。

サービスの承認がカンタン

アカウントマスターを導入することで、サービスの内容、システムの基本ソフトに関係なく、統一された操作で承認や権限設定が実現できます。

お悩み3 管理が大変...

管理業務が複雑化してしまい、特有の技術や能力が必要になり、責任も集中してしまう。

アカウント管理の省力化

アカウントの管理、メンテナンスに関する管理側の手間を大幅に短縮します。たとえばパスワード忘れへの対応やアカウントの廃止などもスムーズに実行可能です。